

マネジメントコース研修生のつぶやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース（※）の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大学校の実務や、研修（第1部課程等）の履修によって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

私は西日本から自治大学校（以下「自治大」という。）にマネジメントコース研修生として派遣されました。自治大での生活や研修における、東京という立地の便利さ・楽しさは、他のマネジメントコース研修生の筆に委ねることにして、私は派遣前に感じていた「自分に自治大の仕事がちゃんと務まるだろうか……」という不安について記したいと思います。

○ マネジメントコースへの派遣

マネジメントコース研修生は、教務部、研究部又は教授室に配属されることになり、私は4月に教務部に着任しました。

派遣前は、①人事課からの派遣打診と応諾、②実家への荷物運搬・転出転入、③賃貸マンションの引き払い、④後任者への引継などをバタバタとこなして上京しました。②③は必ずしもする必要はありませんが、私は一年間のトータルコストを比較して決めました。派遣後のキャリア・ライフプランなども踏まえて考えるのもいいかもしれません。

そして4月にマネジメントコースが始まり、自分が受講する第1部課程研修の期間（私の場合は5月上旬～9月上旬）以外は自治大の職員として業務に従事することになります。

上記研修の受講中は、マネジメントコース研修生も他の研修生と同様に研修に臨み、効果測定や演習、各種提出物に追われながら、矢のように時間が過ぎていきます。研修は一流講師による講義はもちろん、他自治体所属の研修生との交流も刺激的なものばかりです。所属自治体以外の文化を知ることは他団体派遣の大きな醍醐味と言えますが、自治大での研修は、一自治体職員としてはそれを最も大きな形で感じられる機会の一つではないかと思います。特にマネジメントコース研修生は、多くの自治体の職員と長い期間と一緒に過ごすので、所属自治体を見つめ直す絶好の機会でもあります。

▼図書室にはよくお世話になりました。（写真は電気をつける前の朝の図書室）



○ 教務部での仕事

教務部は数人の総務省職員と非常勤職員の方々、そして全国の自治体から派遣されたマネジメントコース研修生で構成されています。マネジメントコース研修生は、1人あたり1つの研修課程を受け持つことになります。おそらくこの時点で少し不安になると思いますが、大丈夫です。マネジメントコース研修生はみんな初任者なので、みんな最初はわからないし、だからこそ助け合えます。

その過程でお互いの人となりもわかつてきて、絆も生まれます。もちろん総務省職員や非常勤職員の方々からのサポートもあるので、慣れない業務でも悲嘆せず、実直に取り組むことができます。

私の担当課程である第1部課程第145期は、10月下旬にスタートしました。日々、どうすればより効果的に研修生の皆さんをサポートできるかという思いのもと、自身の研修経験も踏まえながら試行錯誤しています。これを書いているのは、研修が始まってちょうど一ヶ月という時ですが、引き続き研修生の皆さんのが充実した研修生活を送れるよう、陰ながら頑張ってまいります。

○ おわりに

自治大学校は前述のとおり、お互い助け合いながら業務を進めていくことができる職場です。また、所属自治体以外での勤務は、仕事の進め方や考え方など、見聞を広げることのできる大変貴重な機会です。こうした機会に自分を推薦してくれた派遣元の方々をはじめ、講師の皆様、同期の研修生、第145期の研修生、そしてもちろんマネジメントコース研修生を含む自治大職員の方々に、この場をお借りして感謝を申し上げます。

これから自治大で研修を受ける方、研修を運営する方にとって、拙筆ながら本記事が少しでも参考になれば幸いです。

▼第145期の研修生に誘ってもらった秋の井の頭公園



▼井の頭公園の鴨

